

(様式)

平成 27 年度 新技術導入経営改善実証展示ほ 成果情報

にら 1 年 1 作連続収穫作型の実用性の実証

要約

1 年 1 作連続収穫作型では、5 回の収穫で 12t/10a 前後の高い収量が得られたが、2 番刈り以降の品質低下が顕著であった。

○ 展示のねらい

本県のにらは 2 年 1 作の作型が主流で、土地利用効率が低いことが課題である。

ウォーターカーテンを利用した 1 年 1 作連続収穫作型を実証展示し、保温開始時期の違いが、にらの単収・品質に及ぼす影響について検証を行う。

○ 主な成果

10 月 5 日保温開始区の 5 回の収穫量の合計は 12.77t/10a であった。

10 月 27 日保温開始区の 5 回の収穫量の合計は 11.98t/10a であった。

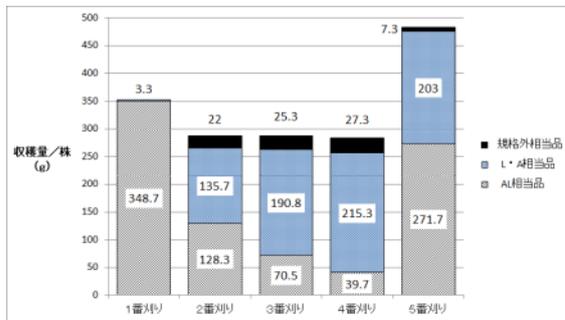


図 1 10/5 保温開始区の収量および品質 (重量比)

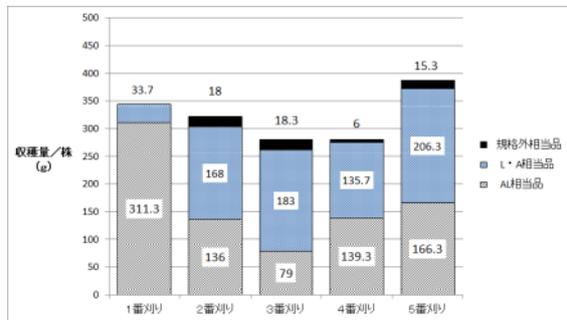


図 2 10/27 保温開始区の収量および品質 (重量比)

本作型では 2 番刈り以降の収量・品質の低下が顕著で、収穫 5 回の合計のうち AL 規格は、10 月 5 日保温開始区が 49.3%、10 月 27 日保温開始区が 50.9%と低かった。これは、株養成期の日照不足と過剰分けつによる受光状態の悪化が収量・品質に大きな影響を及ぼしている」と推察された。

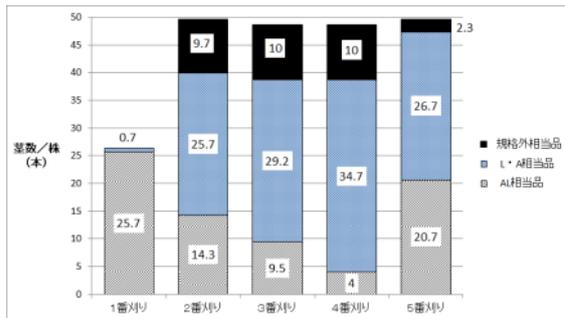


図 3 10/5 保温開始区の茎数および品質

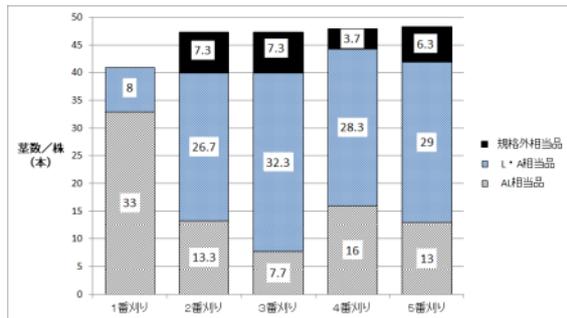


図 4 10/27 保温開始区の茎数および品質

○ 今後の方向性

多収性は確認できたため、品質向上のための適正な分けつ数の再検討を行うとともに、作型の一つとして導入を推進し、周年収穫の強化を図る。

実施機関： 上都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所： 鹿沼市

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315